

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月15日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21730722

研究課題名（和文） 北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育の展開と実相

研究課題名（英文） Deployments and realities of inclusive education in the Nordic welfare state

研究代表者

是永 かな子 (KORENAGA KANAKO)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授

研究者番号：90380302

研究成果の概要(和文)：北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育を歴史的、理論的、制度的、実践的に分析した。史的展開及び制度確立は、義務教育制度開始から障害児学校設置、特別学級分離、インテグレーション志向、インクルーシブ教育への転換等に注目した。理論及び実践は、福祉国家構想の展開と社会民主主義的アプローチ、全ての者の学校概念と統一学校構想の具体化、ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンの浸透を分析した。

研究成果の概要(英文)：

I analyzed the Inclusive education in the Nordic welfare states from points of views in historical, theoretical, systematical practical. I focused historical and systematical events as starting compulsory education system, establishing special schools, separating special classes, orienting integration, transformation of inclusion. For theory and practice aspects, I discussed the expanded of social welfare states system, social democratic approach and concretization of unified school, spreading the idea of normalization, integration and inclusion.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：特別支援教育

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：(1)北欧 (2)福祉国家 (3)インクルーシブ教育 (4)歴史 (5)理論 (6)制度 (7)実践

### 1. 研究開始当初の背景

グローバル化、多文化・多民族化が進行する現在において、北欧型福祉国家というレジームが現在どの程度有効であるのかを検証し、その国家体制のもとでのインクルーシブ教育の位置づけを比較検討する必要があると考える。また本研究で着目するインクルーシブ教育は国連の「特別なニーズ教育に関するサラマンカ声明と行動大綱

(1994)」によって明確に位置付けられたとされるが、ノーマライゼーション発祥の地である北欧では、インテグレーションの提唱のもとですでにインクルーシブ教育の実践を行ってきた経過があり(Rosenqvist, J. 2003)、北欧のインクルーシブ教育を歴史的・理論的に整理することは有用であろう。デンマーク教育大学の Egelund, N. 教授、ノルウェー・スタヴァンゲル大学の Haug, P. 教授、スウェー

デン・イエーテボリ大学の Persson, B. 教授も「スカンディナビア」という視座でスウェーデン、デンマーク、ノルウェーのインクルーシブ教育の展開を分析し、類似点の多い北欧福祉国家においても、その展開には差異があるがゆえに示唆的だとする。石田(2007)も、北欧におけるインクルージョン・システムを分析する過程で、北欧では、「みんなのための学校」として、あらゆる子どもたちに個々の特性、可能性、特別なニーズに適した教育を提供する学校づくりが目指されているが、教育制度には相違がみられたと指摘する。その相違点にこそ、北欧各国のインクルーシブ教育の実相解明の手掛かりがあると考える。以上を踏まえて本研究では、北欧福祉国家においてインクルーシブ教育がいかに類似点と相違点を内包しつつ展開、実践されているか検討することを目的とする。

## 2. 研究の目的

本研究の全体構想は、北欧福祉国家の形成に象徴される社会政策・教育政策と、通常教育改革およびインクルーシブ教育の成立の関係を検討することである。北欧福祉国家とは Esping-Andersen, G. (1990) が指摘する普遍主義型(社会民主主義型・北欧型)レジームの類型を意味しており、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドを研究対象として想定している。その中で本研究の具体的な目的は、北欧福祉国家においてインクルーシブ教育がいかに展開し、実践されているかを歴史的、理論的、制度的、実践的に明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

本研究は、先行研究の収集及び分析による文献研究と現地の行政機関および学校を訪問する調査研究から構成される。

平成 21 年度には、インクルーシブ教育が成立する社会的背景とインクルーシブ教育の歴史的展開を検討した。訪問調査研究ではフィンランドを訪問し、各国の実態調査を行った。平成 22 年度には、インクルーシブ教育理論の比較について先行研究検討を中心に行った。フィンランド、デンマークを訪問し、各国の実態調査を行った。平成 23 年度には、インクルーシブ教育制度について、先行研究検討を行った。訪問調査研究ではノルウェー、デンマーク、スウェーデンを訪問し、各国の実態調査を行った。平成 24 年度には、インクルーシブ教育実践について、先行研究検討を行った。訪問調査研究ではフィンランド、デンマーク、スウェーデンを訪問し、各国の実態調査を行った。また各国で訪問調査を実施する際には、通常入手困難な一次資料の収集を行った。収集した文献は二次的な先行研究とともに文献研究に用いた。

## 4. 研究成果

平成 21 年度には、スウェーデン、デンマ

ーク、ノルウェー、フィンランド各国における福祉国家形成や社会政策などに関する政党の政策・スローガンなどを検討しつつ、とくに教育政策の展開およびインクルーシブ教育の萌芽・成立・展開過程を分析した。また、インクルーシブ教育の史的展開は、義務教育制度開始から障害児学校の設置、通常学級からの特別な学級の分離、インテグレーションの志向、インクルーシブ教育への転換など、メルクマールとなる事項を意識しつつ、各国におけるインクルーシブ教育の系譜を明らかにした。訪問調査研究の対象国は、日本国内における研究資料の乏しいフィンランドとした。とくにヘルシンキ市においての実地調査を行った。現地ではとくに教員養成制度や学力向上とインクルーシブ教育の関連について調査を行った。

平成 22 年度には、インクルージョンの捉え方は各国によって異なるため、インクルーシブ教育を実現するための思想的背景を明確にする必要がある。よってまず各国におけるインクルーシブ教育の理論的な整理を行った。具体的にはノルウェー工科大学の Tøssebro, J. ら北欧の研究者による共同執筆「インテグレーションとインクルーディング」(2004)などの先行研究を手掛かりに、各国におけるインクルーシブ教育概念の相違点を中心に分析した。概念整理の観点は、第一に福祉国家構想の展開と社会民主主義へのアプローチ、第二に「すべての者の学校」概念と統一学校構想の具体化、第三に「ノーマライゼーション」、「インテグレーション」、「インクルージョン」の浸透であった。訪問調査研究の対象国は、フィンランドおよびデンマークであった。平成 22 年度の北欧最大の教育系学会である北欧教育学会がフィンランドのユヴァスキュラ市において開催されたため、研究発表や研究協議を兼ねてフィンランドを訪問し、ユヴァスキュラ大学附属小学校において現地調査を行うとともに資料を収集した。また北欧 4 カ国のうちでは比較的「自由」、「選択」を重んじるデンマークを訪問して、いかに個人の自由と結果の平等を融合させてきたのかを調査・分析した。

平成 23 年度の具体的な研究実績は以下である。第一に、インクルーシブ教育を推進する専門家としての教員養成制度の比較研究、第二に、地方分権下における新たな学校制度構築のための意思決定プロセスの解明、第三に、ノルウェーで導入されているインクルーシブ教育を創造するための LP モデルの分析、第四にインクルーシブ教育における特別学校の役割の検討である。これらの研究を通じて各国の制度的特色を明らかにした。第一の結果からは、現在議論されている教員養成課程や研修による教員の専門性向上の方略が明らかになった。第二の結果からは、インク

ルーシブ教育を進めるために不可欠な地方分権の推進プロセスおよび民主的で経済的な教育制度改革が分析された。第三の結果からは、通常学級においてインクルージョンを進めるために、同僚性と省察に基づく通常学級教育環境の改善が常に必要であることが示された。第四の結果からは、インクルーシブ教育制度の多様性や修学支援システムの保障、子どもの教育的ニーズに対応するために必要とされる「分離的統合」の視点から各国の教育制度を検討することができた。

平成 24 年度の具体的な研究実績は以下である。第一に、デンマークの地方分権の推進とインクルーシブ教育の具体化の研究、第二に、スウェーデンの就学支援システムと保護者との合意形成システムの解明、第三に、スウェーデンのインクルーシブ教育における個の学習保障と学び合う集団形成の検討、第四にスウェーデン・パティレ市における知的障害者の就労支援の検討、第五にフィンランドにおける段階的支援としての特別教育と個別計画の活用、である。これらの研究を通じて各国の制度的特色を明らかにした。第一の結果からは、地域性・多様性を全体とする地方分権に伴う教育改革も、3 つ程度の方向性において分類できる可能性が示唆された。第二の結果からは、就学のみならず修学を支援する過程で、保護者の教育選択と地方自治体の教育を受ける権利保障の義務を共存させる制度構築の方略が示された。第三の結果からは、スウェーデンにおいては個の学習保障の方法として集団による学習が活用されていることが明らかになった。第四の結果からは、日中活動保障から一般就労への移行支援がソーシャルインクルージョンとして強化されていることが分析された。第四の結果からは、インクルーシブ教育を段階的支援として具体化する方法の一例が示された。全ての研究成果は学会発表および論文執筆によって公表した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 52 件)

- 1、樺山明日美、是永かな子、スウェーデンの通常学級における障害児のインクルーシブ教育-個の学習保障と学び合う関係形成に着目して-、高知大学教育学部研究報告、査読無、73 号、2013、pp. 107-114.
- 2、矢野川祥典、是永かな子、高知県の産業構造に着目した知的障害者の就労状況分析と雇用開発、高知大学教育学部研究報告、査読無、73 号、2013、pp. 123-130.
- 3、是永かな子・真城知己、デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育の実際-Aabenraa, Lolland, Guldborgsund, Kalundborg municipality の 2007 年以降の変化に着目して-、高知大学教育学部研究報告、査読無、73 号、2013、pp. 115-121.
- 4、是永かな子、フィンランドにおける段階的支援としての特別教育と個別計画の活用、高知大学教育実践研究、査読無、27 号、pp. 71-82、2013.
- 5、樺山明日美、是永かな子、スウェーデンのインクルーシブ教育の実際-個の学習保障と学び合う集団形成に着目して-、高知大学教育実践研究、査読無、27 号、pp. 83-91、2013.
- 6、矢野川祥典、是永かな子、高知県の知的障害特別支援学校における就労状況、高知大学教育実践研究、査読無、27 号、pp. 93-107、2013.
- 7、北添紀子、泉本雄司、熊谷直子、平野晋吾、寺田信一、是永かな子、The University Personality Inventory (UPI) は the Autism-Spectrum Quotient (AQ) の代わりとして活用できるのか? CAMPUS HEALTH、査読有、49 巻 3 号、2012、pp. 73-78.
- 8、千賀愛、是永かな子、20 世紀初頭のアメリカとスウェーデンにおける特別学級・補助学級に関する検討 -学習困難児の実態把握の方法を中心に-、北海道教育大学紀要 教育科学編、査読有、63 巻 1 号、2012、pp. 99-114.
- 9、前田知哉、是永かな子、通常学級における学習困難児に対する算数教材の試行、高知大学学術研究報告、査読無、61 号、pp. 25-29、2012.
- 10、是永かな子、スウェーデン・パティレ市における知的障害者の就労支援-日中活動保障から一般就労への移行支援に着目して-、高知大学学術研究報告、査読無、61 号、2012、pp. 17-24.
- 11、是永かな子、デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育の推進-カルンボ-コム-ネの動向に着目して-、特別支援教育コーディネーター研究、査読無、8 号、2012、pp. 55-63.
- 12、前田知哉、河本勝一郎、是永かな子、通常学級における多様な学びに着目した算数の教材研究、高知大学教育実践研究、査読無、26 号、2012、pp. 53-59.
- 13、樺山明日美、是永かな子、通常学級における個別の計画を利用した学び合う集団づくり、高知大学教育実践研究、査読無、26 号、2012、pp. 43-52.
- 14、齋藤恵加、是永かな子、北欧福祉国家における初等学校教員養成-インクルーシブ教育の視点から-、高知大学教育実践研究、査読無、26 号、2012、pp. 25-41.
- 15、森田唯、是永かな子、重症心身障害児に対するベッドサイド学習-病弱特別支援学校での実践に着目して-、高知大学教育学部研究報告、査読無、72 号、2012、pp. 181-196.
- 16、矢野川祥典、是永かな子、全国と高知県の産業構造及び知的障害特別支援学校卒業生の就労状況の分析、高知大学教育学部研究報告、査読無、72 号、2012、pp. 87-94.

- 17、是永かな子、通常学校におけるインクルーシブ教育のための教育方法-ノルウェーのLPモデルとデンマークのギフトドプログラムを中心に-、高知大学教育学部研究報告、査読無、72号、2012、pp.169-179.
- 18、小島道生、吉利宗久、石橋由紀子、平賀健太郎、片岡美華、是永かな子、丸山啓史、水内豊和、通常学級での特別支援教育に対する小・中学校の担任教師の意識構造とその影響要因、特殊教育学研究、査読有、49巻2号、2011、pp.127-134.
- 19、是永かな子、上田真弓、高知県における障害児本人および保護者の支援のための関連機関の連携-「障害ケアコーディネーター」構想を中心に-、高知大学学術研究報告、査読無、60号、2011、pp.15-29.
- 20、是永かな子、田野岡寛治、児童自立支援施設における特別支援教育の視点に基づいた指導の検討、高知大学学術研究報告、査読無、60号、2011、pp.31-45.
- 21、是永かな子、真城知己、デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育の展開、高知大学学術研究報告、査読無、60号、2011、pp.47-60.
- 22、是永かな子、スウェーデンにおける障害児学校の位置づけと機能-障害者権利条約とインクルーシブ教育の動向を踏まえて-、障害者問題研究、査読無、39巻、2011、pp.20-27.
- 23、是永かな子、大学間国際交流協定に基づく短期教員研修留学プログラムの確立(その3)-高知大学附属特別支援学校教員による国際交流と学生による国際教育実習の試行-、高知大学総合教育センター-修学・留学生支援部門紀要、査読無、5号、2011、pp.105-117.
- 24、クリストファー・ギルバーク、畠中雄平、是永かな子、平野晋吾、泉本雄司、小谷治子、吉岡知子、満田直美、松下憲司、細川卓利、永野志歩、精神保健における共感と良心、高知大学総合教育センター-修学・留学生支援部門紀要、査読無、5号、2011、pp.61-82.
- 25、是永かな子、山中文、菊地るみ子、確かな学力と豊かな人間性を育む北欧の学校教育-音楽と家庭科の指導に注目して-、高知大学教育実践研究、査読無、25号、2011、pp.35-43.
- 26、三輪宥希、是永かな子、小学校・中学校・特別支援学校での特別支援教育推進に関する保護者ニーズ調査、高知大学教育実践研究、査読無、25号、2011、pp.171-177.
- 27、宇川浩之、是永かな子、自閉症生徒のコミュニケーションスキルに着目した移行支援、高知大学教育実践研究、査読無、25号、2011、pp.21-33.
- 28、衣川紘子・是永かな子、スウェーデンにおける知的障害児に対する余暇教員の専門性、高知大学教育実践研究、査読無、25号、2011、pp.53-65.
- 29、山田志保、是永かな子、スウェーデンにおける知的障害児に対する性教育-イエテボリ(Göteborg)市およびパティレ(Partille)市での聞き取り調査をもとに-、高知大学教育学部研究報告、査読無、71号、2011、pp.171-177.
- 30、三輪宥希、是永かな子、高知県の中学校区域における特別支援教育体制推進の課題-アンケート調査をもとに-、高知大学教育学部研究報告、査読無、71号、2011、pp.145-170.
- 31、岡崎高志、是永かな子、高知県の高等学校における発達障害のある生徒への修学支援-特別支援教育コーディネーターを対象とした調査から-、高知大学教育学部研究報告、査読無、71号、2010、pp.129-144.
- 32、吉利宗久、小島道生、是永かな子、丸山啓史、平賀健太郎、石橋(手島)由紀子、片岡美華、水内豊和、インクルーシブ教育の展開に即した特別支援教育スキルの解明とそれに基づく教員養成システムの開発、日本教育大学協会研究年報、査読有、28巻、2010、pp.217-230.
- 33、三輪宥希、是永かな子、高知県の特別支援教育プロジェクト事業の成果と課題-特別支援教育コーディネーター・市町村教育委員会・保護者に対する調査から-、高知大学教育学部研究報告、査読無、70巻、2010、pp.89-98.
- 34、岡田奈緒、是永かな子、肢体不自由特別支援学校における重度・重複障害児に対するコミュニケーション指導の研究、高知大学教育学部研究報告、査読無、70巻、2010、pp.71-88.
- 35、宇川浩之、矢野川祥典、三好喜久、是永かな子、石山貴章、田中誠、自閉症生徒の就労移行支援について-社会性の学習と関係機関との連携した環境設定の取り組みから-、高知大学教育実践研究、査読無、24巻、2010、pp.143-150.
- 36、畠中雄平、野々宮京子、是永かな子、PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)によるコミュニケーションスキルの獲得に伴い行動面の改善が見られた重度精神遅滞を伴う自閉症スペクトラムの一例について-、高知大学教育実践研究、査読有、24巻、2010、pp.113-122.
- 37、是永かな子、北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育の歴史的展開-義務教育制度の開始から分離型教育制度の成立までを中心に-、高知大学教育実践研究、査読無、24巻、2010、pp.87-97.
- 38、寺尾恵理佳、是永かな子、公立中学校における特別支援教育体制の構築-特別支援教育コーディネーターの役割に着目して-、高知大学教育実践研究、査読無、24巻、2010、pp.99-112.
- 39、是永かな子、大学間国際交流協定に基づ

く短期教員研修留学プログラムの確立(その2)-高知大学とスウェーデン・イエーテボリ大学間の国際交流促進及び大学の地域貢献を目的として-、高知大学総合教育センター-修学・留学生支援部門紀要、査読無、4巻、2010、pp. 79-95.

40、是永かな子、三輪宥希、高知県における新たな特別支援教育体制モデル、高知大学学術研究報告、査読無、59巻、2010、pp. 27-33.

41、是永かな子、富樫翼、生徒の主体性を重視した就労支援-関係機関の連携による支援体制構築と個別の移行支援計画の活用に着目して-、高知大学学術研究報告、査読無、59巻、2010、pp. 1-10

42、クリストファー・ギルバーク、是永かな子、アスペルガー-症候群の思春期以降の症状と対応、高知大学総合教育センター-修学・留学生支援部門紀要、査読無、4巻、2010、pp. 97-119.

43、是永かな子、岡崎高志、高知県の公立高等学校における発達障害の診断のある或いは発達障害の疑われる生徒に対する校内支援体制の現状と支援内容に関する聞き取り調査、高知大学学術研究報告、査読無、59号、2010、pp. 11-25.

44、北添紀子、藤田尚文、寺田信一、是永かな子、泉本雄司、植田わ佐、大学生における自閉症スペクトラムの実態調査-the Autism-Spectrum Quotient 結果の分析-、LD研究、査読有、18巻1号、2009、pp. 66-71.

45、是永かな子、大学間国際交流協定に基づく短期教員研修留学プログラムの確立(その1)-高知大学とスウェーデン・イエーテボリ大学間の国際交流促進及び大学の地域貢献を目的として-、高知大学総合教育センター-修学・留学生支援部門紀要、査読無、3巻、2009、pp. 93-101.

46、末次彩乃、是永かな子、スウェーデンにおけるインクルーシブ教育の実際-パティレ市オレショースト-レゴド基礎学校の取り組みより-、高知大学教育実践研究、査読無、23巻、2009、pp. 87-101.

47、是永かな子、スウェーデンにおける教育政策の立案と評価に関するシステムの研究(その1)-1978年「インテグレーション検討委員会(Integrationsutredningen)」の分析を中心に-、高知大学教育実践研究、査読無、23巻、2009、pp. 103-109.

48、藤本明菜、是永かな子、スウェーデンのバイリンガルろう教育の現状と課題-マニラ聴覚障害特別学校・ヴェーネル聴覚障害特別学校・カナベック聴覚障害特別学校の訪問調査から-、高知大学教育学部研究報告、査読無、69巻、2009、pp. 83-91.

49、是永かな子、スウェーデンにおける教育政策の立案と評価に関するシステムの研究(その3)-2002年の「カールベック委員会(Carlbeck-kommitten)」の検討を中心に-

査読無、高知大学教育学部研究報告、査読無、69巻、2009、pp. 71-82.

50、砂田真実、是永かな子、特別支援学校教員の授業力向上のための校内研修、高知大学学術研究報告、査読無、58巻、2009、pp. 59-74

51、篠田かおり、是永かな子、発達障害児に対する作業療法士のコンサルテーション、高知大学学術研究報告、査読無、58巻、2009、pp. 75-85.

52、金村和恵、是永かな子、藤田尚文、全国の知的障害特別支援学校小学部における自閉症教育の現状と課題-アンケート調査の分析から-、高知大学学術研究報告、査読無、58巻、2009、pp. 87-101.

[学会発表] (計28件)

1、Kanako Korenaga、"Current situations about decentralization and inclusive education in Denmark; focusing on Aabenraa, Lolland、Guldborgsund、Kalundborg municipalities."、The 41th Congress of the Nordic Educational Research Association、Reykjavik、Iceland、March、7-9、2013

2、北添紀子、平野晋吾、寺田信一、泉本雄司、是永かな子、玉里恵美子、「自閉症スペクトラムのある学生への就労支援-学内インターンシップの試み-」、第50回全国大学保健管理研究集会、ポートピアホール他(兵庫県神戸市)、10月17-18日、2012年

3、是永かな子、「北欧福祉国家における特別教育と学力形成」、第18回日本特別ニーズ教育学会、高知大学、10月20-21日、2012年

3、矢野川祥典、是永かな子、「『医療、福祉』産業種における知的障害者の雇用分析-高知県の産業構造と就労状況に着目して-」、第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場(茨城県)、9月30日、2012年

5、柳本佳寿枝、安東恵美、谷亜由美、宇川浩之、鈴木恵太、是永かな子、寺田信一、「知的障害特別支援学校におけるチェックリストを用いた授業作りとその評価③-高等部の社会性の学習の授業における評価-」第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場(茨城県)、9月29日、2012年

6、谷亜由美、柳本佳寿枝、安東恵美、宇川浩之、鈴木恵太、是永かな子、寺田信一、「知的障害特別支援学校におけるチェックリストを用いた授業作りとその評価②-中学部社会性の学習の授業における評価-」第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場(茨城県)、9月29日、2012年

7、安東恵美、柳本佳寿枝、谷亜由美、宇川浩之、増澤貴宏、鈴木恵太、是永かな子、寺田信一、「知的障害特別支援学校におけるチェックリストを用いた授業作りとその評価①-小学部の『社会性の学習』の授業における評価-」第50回日本特殊教育学会、筑波国際会

議場（茨城県）、9月29日、2012年

8、宇川浩之、安東恵美、谷亜由美、柳本佳寿枝、鈴木恵太、是永かな子、寺田信一、「知的障害特別支援学校におけるチェックリストを用いた授業作りとその評価-「成長の記録試用版2009」を活用した教育実践-」第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場（茨城県）、9月29日、2012年

9、前田知哉、是永かな子、「通常学級で学習に困難を示す子どもに着目した算数の教材研究」、第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場（茨城県）、9月29日、2012年

10、是永かな子・真城知己、「デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育の実際-Aabenraa、Lolland、Guldborgsund、Kalundborg kommuneの2007年以降の変化に注目して-」、第50回日本特殊教育学会、筑波国際会議場（茨城県）、9月28日、2012年

11、是永かな子、スウェーデン・パティレ市における知的障害者の就労支援-日中活動保障から一般就労への移行支援に注目して-、第48回日本発達障害学会、横浜国立大学（神奈川県）、8月11-12日、2012年

12、Kanako Korenaga、Individual Support Plan and Support Conference (Meeting) for Making Inclusive Education、Nordic Educational Research Association、2012年3月8日、オース大学（デンマーク）

13、是永かな子他、日本特殊教育学会の国際化の課題、日本特殊教育学会、2011年9月23日、弘前大学（青森県）

14、是永かな子、北欧福祉国家における多様なニーズに応じるインクルーシブな教育制度、2011年9月23日、弘前大学（青森県）

15、真城知己、是永かな子、デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育、日本特殊教育学会、2011年9月23日、弘前大学（青森県）

16、是永かな子、北欧福祉国家の通常学校におけるインクルーシブな教育方法、日本 SNE 学会、2011年11月5日、福岡教育大学（福岡県）

17、是永かな子、北欧福祉国家のインクルーシブ教育における特別学校の役割、日本発達障害学会、2011年8月20日、鳥取大学（鳥取県）

18、是永かな子、北欧福祉国家における初等学校教員養成、日本 LD 学会、2011年9月17日、跡見学園女子大学（東京都）

19、是永かな子、北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育理念の展開、-「全ての者の学校」理念と「統一学校」構想に着目して-、日本特殊教育学会、長崎大学、2010年9月18日。

20、岡崎高志、是永かな子、高知県の公立中学校における発達障害の診断のある生徒の進路指導、日本特殊教育学会、長崎大学、2010

年9月18日。

21、Kanako Korenaga、Tomomi Sanagi、The development of decentralization and inclusive education in Denmark、Nordic Educational Research Association、フィンランド・ユバスキュラ、2011年3月11日。

22、是永かな子、北欧福祉国家におけるノーマライゼーション・インテグレーション・インクルージョン理念の浸透、日本 SNE 学会、岡山大学、2010年11月7日。

23、是永かな子、真城知己、デンマークにおける地方分権とインクルーシブ教育の展開、日本教育学会、広島大学、2010年8月20日。

24、Kanako Korenaga、The historic development of the inclusive education in the Nordic welfare state、Nordic education research association、2010年3月11日、マルメ大学（スウェーデン）

25、是永かな子、北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育の展開-インテグレーションの志向からインクルーシブ教育への転換を中心に-、日本 LD 学会、2009年10月10日、東京学芸大学（東京都）

26、山田志保、是永かな子、スウェーデンにおける知的障害児に対する性教育の実際、日本特殊教育学会、2009年9月19日、宇都宮大学（栃木県）

27、是永かな子、北欧福祉国家におけるインクルーシブ教育の歴史的展開-義務教育制度の開始から分離型教育制度の成立までを中心に-、日本特殊教育学会、2009年9月19日、宇都宮大学（栃木県）

28、平賀健太郎、手島由紀子、小島道生、吉利宗久、片岡美華、丸山啓史、水内豊和、是永かな子、インクルーシブ教育の展開に即した教員養成システムの国際比較、日本特殊教育学会、2009年9月19日、宇都宮大学（栃木県）

〔図書〕（計8件）

1、是永かな子、5章〈スウェーデン〉就修学支援システムと保護者との合意形成、渡部昭男編著、日本型インクルーシブ教育システムへの道、三学出版、2012、pp. 80-96。

2、是永かな子、第3節 障害児・者の福祉の基礎『障害児心理学入門』ミネルヴァ書房、2011、pp. 18-30。

3、是永かな子、第39章スウェーデンの教育の特徴、村井誠人編著『スウェーデンを知るための60章』明石書店、2009、pp. 256-261。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

是永 かな子 (KORENAGA KANAKO)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授

研究者番号：90380302